

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi) : 中央研究施設機能部門：教授：任期：R2年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATO Takeshi) : 歯科・口腔外科：准教授：任期：R2年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi) : 総合医療センター病理部：教授：任期：R2年3月31日
部門員：大島 晋 (OHSHIMA Susumu) : 中央研究施設形態部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi) : 中央研究施設 RI 部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami) : 中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIIBASHI Michio) : 情報技術支援推進センター：教授：任期：R2年3月31日
部門員：西本 正純 (NISHIMOTO Masazumi) : 中央研究施設日高ランチ RI 部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：水野 洋介 (MIZUNO Yousuke) : 中央研究施設日高ランチ機能部門：准教授：任期：R2年3月31日
部門員：横尾 友隆 (YOKOO Tomotaka) : 中央研究施設日高ランチ実験動物部門：准教授：任期：R2年3月31日

2. 目的

本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、本学における臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動報告

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。現在、基礎医学棟3階に整備されており、12区画の実験スペースが容易されている。また、フェローステーションが併設されており、利用者はデータ整理と休息のために使用することができる。令和元(2019)年度は、医学研究センター、皮膚科、消化器一般外科、医学教育センター、ER、生理学(2グループ)、小児科、アドミッションセンター、消化管内科、毛呂山キャンパス RI 部門、歯科・口腔外科、保健医療学部看護学科により有効利用された(総利用料：¥276,000)。また、日高キャンパスゲノム棟4階にも同様のスペースが整備され、試験的に運用が開始されている。次年度から本格的に利用が開始される予定である。

【中央研究施設共同利用研究機器・設備整備】

①令和元(2019)年7月31日自動転写式電気泳動装置(機能部門設置)、8月31日高級実態顕微鏡(日高ランチ実験動物部門)、11月30日EM TPLM用樹脂包埋向け試料処理装置(日高ランチ実験動物部門)が、研究マインド支援グラントにより研究支援のために導入され、利用が開始された。

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

①令和元(2019)年7月31日、16:00-17:30、基礎医学棟3階会議室・中央研究施設機能部門「全自動前処理装置+細胞培地分析プラットフォーム+LC-MS」、対象：学内研究者

②令和元(2019)年8月28日、15:00-16:30、「自動転写式電気泳動装置「DIRECT BLOT BM-80の取り扱い説明会」、対象：学内研究者

【委員会等】**1) 共同利用施設運営部門／中央研究施設運営委員会会議**

①第72回中央研究施設運営委員会：日時：平成31(2019)年3月29日(月)～令和元(2019)年6月6日(木)，場所：メーリングリスト会議，【議事】1) 2018(平成30)年度会計報告に関して：前年度の会計報告がなされた。2018年4月より中央研究施設日高ランチに機能，実験動物，RIの3部門が改組され，従来の毛呂山キャンパスの各部門と経理を一体化して処理することとなった。2) 中央研究施設日高ランチ機能部門利用規則に関して：中央研究施設日高ランチ機能部門が4月1日より本格的に運用を試みる。共同利用機器利用規程及び共同利用実験室，フェローステーションの各利用内規について審議した。謝辞の英分の文法等のチェックの必要性について指摘された。機能部門共同利用機器利用規程に関して，本学の「諸規定管理規定」第4条に，規程：寄附行為，学則または法令等に基づけば，規則が妥当との意見があった。これらに関して，英文は本学教養教育・英語担当教師に修正を依頼し，後者に関しては「内規」に統一し，承認された。3) 人事に関して：形態部門において，退職者1名があり，保健医療学部卒業生1名が新規採用される旨報告された。また，以下が報告された。4月1日付で水野委員が日高ランチ機能部門長となり，日高ランチ長を坂本委員が兼担する。4) 中央研究施設運営委員会委員，オブザーバーに関して：2019，2020年度の委員とオブザーバーの構成について報告された。②第73回中央研究施設運営委員会，日時：令和元(2019)年12月16日(月)～令和2(2020)年1月10日(金)，場所：メーリングリスト会議【議事】1) 現在の中央研究施設への設置希望機器まとめ現在の中央研究施設への設置希望機器に関して：多くの研究機器は私学助成金を利用して購入を図る必要があるが，現時点では大型機器を申請できるような枠が無い旨説明された。小型研究機器の一部は，学内グラントに申請可能であると報告された。2) 人事に関して2019年12月1日付で以下の委員の昇進について報告された。日高ランチRI部門 西本正純：准教授，日高ランチ実験動物部門 横尾友隆：准教授，日高ランチ機能部門 水野洋介：准教授，機能部門 廣澤成美：講師3) 機能部門及び形態部門の利用内規に関して機能部門及び形態部門の利用内規(案)の改訂について学生の共同研究設備・機器の利用に関して議論があり，4条13)，細目1.に明記した旨説明され，審議の結果，本利用内規案が承認された。4) 日高ランチにおける「実験系廃棄物処理の手引き(案)」に関して説明された。審議の結果「実験系廃棄物処理の手引き」の内容に関して了承された。

【共同研究の啓蒙活動等】

東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクスセンター(平成29年4月1日～令和2年3月31日)及び城西大学(平成28年4月1日～令和2年3月31日)と中央研究施設の間で共同研究契約書を取り交わしており，共同利用施設を有効利用した研究が継続されている。城西大学との共同研究では，成果が有り，2020年2月21日，専門誌 *Rapid Communications in Mass Spectrometry* に掲載された(Characterization of 6-bromoferulic acid as a novel common-use matrix for MALDI-TOF-MS, DOI:10.1002/rcm.8636) また，東洋大学との研究成果も投稿中となっている。一方，日高ランチ機能部門管理下に，毛呂山キャンパスと同様の共同利用実験室，共同利用フェローステーションの整備が進み，リサーチパークにおいて研究活動を行う会社，各キャンパスの研究者による共同研究の推進とその支援に関して活動を行っている。

4. 評価と次年度目標

実験動物施設における感染対策に関しては，引き続き良好な結果が得られている。感染動物の検出はほぼ陰性の状態が続いている。助成金申請に関わる変化が大きいため共同利用施設運営部門として事務部門とタイアップし，共同利用研究機器購入経費を獲得することを目的として活動して来たが，他大学との連携が重要な面があり，外部向けホームページを公開した。令和元(2019)は，リサーチパーク開設され共同研究が展開されつつあり，日高ランチ機能部門が主に研究サポートについて検討している。また研究者，事務系との連携が運営遂行に不可欠であるが，現状円滑な進捗状況である。外部向けホームページへの日高ランチの情報公開は，予定より遅れているが年度内での掲載を目指す。